

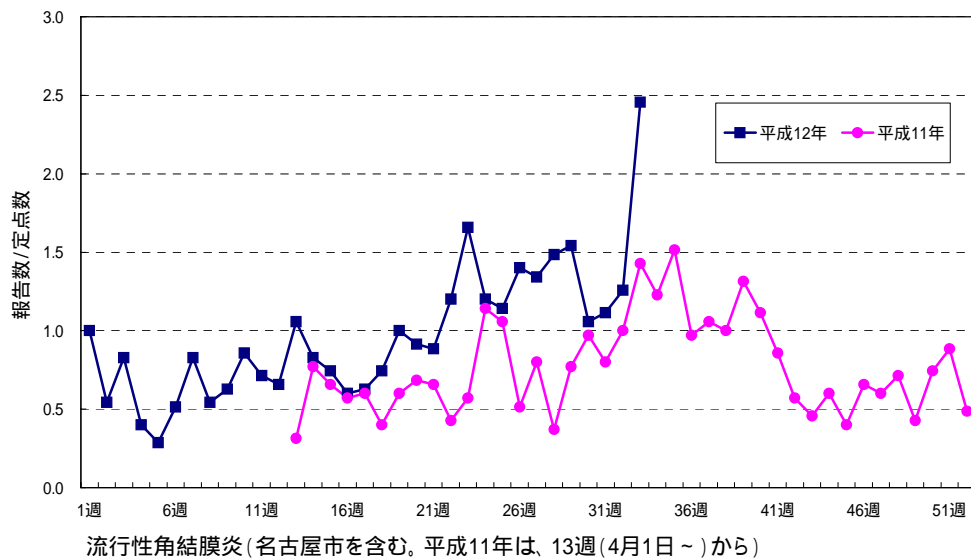
愛知県感染症情報

平成 12 年第 33 週（8 月第 3 週）

（コメント）

お盆休みの影響か報告数が全体的に少なくなっている中で、流行性角結膜炎の報告数は増加しています。特に今週は、西三河地区での報告が目立ちます。

先生方からのコメントに、サルモネラの事例が目立ちますので注意してください。



（先生方からのコメント）

● 尾張西部地区

- ・ 病原性大腸菌感染症 O-1 26歳男

マイコプラズマ肺炎

男6名（1歳、2歳2名、4歳2名、13歳）

女5名（2歳2名、4歳、35歳、45歳）

（尾西市 城後小児科）

- ・ ヘルパンギーナ続発中

ムンプス続発中

（岩倉市 なかよしこどもクリニック）

● 尾張東部地区

- ・ カンピロバクター腸炎3例（6歳男、10歳男、11歳男）。

（瀬戸市 津田こどもクリニック）

- ・ 手足口病流行中（発熱（2～3回）を伴い、口腔内疹著明な割に手足発疹は少ない例が多いようです。）

水痘継続。

それ以外目立った感染症はありません。

(尾張旭市 佐伯小児科医院)

- ・ 夏かぜで下熱後に頬部・四肢に発疹のする症例多い。
(美浜町 愛知県厚生農業協同組合連合会知多厚生病院)
- ・ 2歳男児検便(サルモネラ菌検出)
(小牧市 鈴木小児科)
- ・ ヘルパンギーナ減少する
(小牧市 小牧市民病院小児科)

● 西三河地区

- ・ サルモネラ O-4 2歳男
カンピロバクター 2歳女
(幸田町 とみた小児科)
- ・ カンピロバクター 12歳女、黄色ブドウ球菌 MRSA(+)
(岡崎市 にいのみ小児科)
- ・ サルモネラ O-4(+) 10歳男、O-8(+) 10歳男
(岡崎市 医療法人川島小児科水野医院)
- ・ カンピロバクター 3名(5歳女、8歳女、4歳女)
サルモネラ O-4群 12歳女
(岡崎市 花田こどもクリニック)
- ・ 兄弟3人:サルモネラ O-4(16歳男、3歳女、1歳女)
(碧南市 永井小児クリニック)
- ・ サルモネラ O-4(+) 4歳男
(西尾市 やすい小児科)

● 東三河地区

- ・ 帯状疱疹 6ヶ月男(2000年6月 水痘罹患)
サルモネラ O-4 8ヶ月女
(豊橋市 こどもの国大谷小児科)
- ・ サルモネラ O-9 1歳3ヶ月
(蒲郡市 蒲郡市民病院)

(1~3類感染症の発生状況)

腸管出血性大腸菌感染症患者2名

- ・ 岡崎保健所から報告の5歳女 8/12発病、8/14初診、8/16診定。
菌型は、O-157 VT2(+)
- ・ 半田保健所から報告の59歳男 8/9発病、8/11初診、8/19診定。
菌型は、O-157 VT1・VT2(+)

- 細菌性赤痢患者 1 名。
 - ・ 一宮保健所から報告の 27 歳男 8/15 発病、8/16 初診、8/18 診定。菌型は、ゾンネ 相。コスタリカ渡航歴有り。

(全数把握の 4 類感染症の発生状況)

破傷風患者 2 名。

無症候梅毒患者 1 名

第 32 週 (8 月 7 日 ~ 8 月 13 日) の 4 類感染症の全国状況

咽頭結膜熱、手足口病の定点当たり患者報告数は減少傾向にあるが、例年の同時期にくらべやや多くなっている。手足口病は山形県で依然定点当たり報告数 7.6 と多い。麻疹の定点当たり報告数は例年の同時期に比べやや多くなっている。定点当たり報告数が多いのは、大分県、高知県、奈良県、岡山県、大阪府などである。流行性角結膜炎は高知県で 5.0 、福岡県で 3.7 、沖縄県で 3.4 と定点当たり報告数が多くなっている。

(Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報)

2000年6月30日号(75巻26号)

75巻1号 - 26号の索引。

ポリオ根絶計画。WHO東南アジア地区パート (注:タイからインドネシア、インドまでと北朝鮮が所属)の1999年における状況。

世界最大の野生株によるポリオ発生地区であり99年の世界ポリオ報告数の48%、野生株ポリオ報告数の62%を占めていて、野生株常在地である。ポリオ生ワクチン3回定期接種率:当地域10カ国の99年の定期接種率は7カ国で90%以上と報告されているが実際の接種率調査ではそれ以下となっている。全国一斉接種(NIDs):全地域で実施、インドでは99年に1億4千700万の小児に実施された。5カ国では発生地区における重点追加接種も実施。

急性弛緩性麻痺(AFP)調査:ポリオ類似疾患症例の発生報告網の整備が進められ、同時に適切なウイルス検査材料の検査室搬入状況は良好となっているが(インドで98年から99年で59% 72%)、まだ50%以下の国もある。ポリオウイルス検査網の確立の支援がWHOにより努力されている。ポリオ発生状況:最大の報告地区はインド北部4州で98年届出数4,322例、99年届出数2,810例、主流は野生株ポリオ3型。他に野生株ポリオ発生がミャンマ、ネパール、バングラデシュ、インドネシア、タイ(臨床診断例を含む)で報告。

インフルエンザ:2000年6月。オーストラリア、チリ。A型とB型。

6月23日 - 30日届出。コレラ:ドイツ(輸入例)。

2000年7月7日号(75巻27号)

マラリア:緊急事態発生下の多発。内戦、紛争、自然災害などで発生した国際・国内的難民にマラリア罹患が多発、例えばアフリカでは年間96万人のマラリア死亡例の30%がこうした複合緊急事態下で発生中で、WHO、国際赤十字、国境なき医師団、CDCなどの国際組織が対策のために活躍中。

レプトスピラ感染症:インド・ビハール州。99年11月のサイクロン災害後の状況。99年10月下旬にビハール州を中心にサイクロンの豪雨による洪水。出血性発熱疾患が11月になって多発、最初は Dengue 出血熱が疑われたがその後血清診断からレプトスピラ症と判明。多発した4農村を12月に調査:米作地区で家畜・家禽が多く、洪水で10 - 30日冠水、多くの家族が避難所生活。住民142例について検索。14%がELISA抗体陽性で臨床的にも発病者、14%が抗体陽転者で集落における感染率は高く、年齢的には30歳以下の20%台、30歳以上の40%が陽性で途上国、環境の変化による人畜共通再興感染症としてのレプトスピラ症の重要性を示唆している。

ポリオ根絶計画。WHO東南アジア地区パート。世界人口の25%を占める10億人がポリオ常在地のインドを中心に居住しており、この地区におけるポリオ根絶が地球上からの絶滅に決定的となっている。インド国内では1998年には全国的に発生していたのが99年には減少、北部各州が中心にポリオ野生株の1型と3型が流行中で2型が散発、ミャンマ、バングラデシュ、ネパールの国境地帯の発生も注目され、これら各国では集団接種強化策が展開されている。

インフルエンザ:00年6月。アルゼンチン、チリ、モリシヤス、メキシコ。A型。

6月30日 - 7月6日届出。コレラ:インド。

